

キャリアを考える「場」をつくる (2)

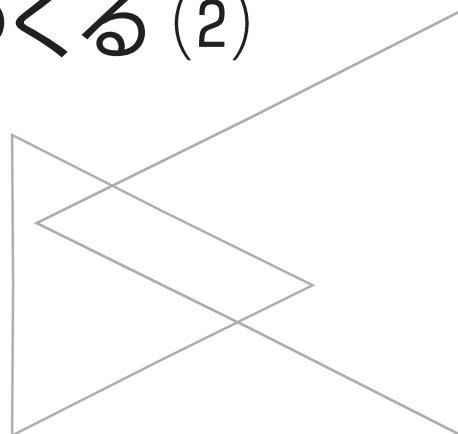
—話し合うということ—



小野田博之

有限会社キャリアスケープ・コンサルティング 代表

おのだ・ひろゆき●経営人事コンサルタント、キャリア・カウンセラー。大学卒業後、新聞社記者、ソフトウェア会社人事教育部等を経て、現職。内的キャリアを自覚した個人と社会的ミッションを自覚した組織の成長、発展の支援を目的とした経営コンサルティング、組織開発／キャリア開発、キャリアをテーマとしたグループワーク、カウンセリング等を行っている。



先回り上げたキャリア開発ワークショップ・CDW®では、自己分析作業を終え、キャリアプランを作成するセッションの前あたりで、「私の生きがい、働きがい」というテーマの話し合いの時間を持ちます。ここまでの自己分析の結果を踏まえて、その時点での「私の」「自分の」生きがい、働きがいを言葉にします。「話し合う」というよりは「語り合う」という感じでしょうか。この時、参加者の方々にしつこく「ここでお話し合いはディスカッションではありません」ということを促すのでしょうか？

研修に話し合いはつきものですが：

キャリアをテーマにした研修、ワークショップではグループで話し合うという時間を取ることが少なくありません。ワークシート作成などのアクティビティとしてはグループで話し合った後、相互フィードバックをしたりを繰り返すというものを泊まり込みで行う経験をしたこともあります。

しかし、グループや2〜3人で話し合うというのはキャリアに関わる研修に特有の内容ではありません。ほかの人の考え方を聞くことで自分にはなかった発想が得られたり、考え方を参考にさせてもらったりすることができ、適切なフィードバックをもらうことで改めて確信を得たり、異なる見方で自分を再認識することができるようになるというメリットがあるので、コミュニケーションに関わる研修などさまざまな場面で活用されます。また、皆の前で発表することが、言っ

たことへのコミットメントにつながるとして、決意表明という目的で使われることもあります。

本音を話せる場をつくる

さまざまな効果が見込める「話し合い」ですが、懸念もあります。

まずほかの人の考えに左右されすぎの可能性があります。あるいは自分の思いや考えを伝えるのがためらわれて、通り一遍の話になってしまったりすることもあります。特に社内を実施している場合などは、話す内容に関係する人がその場にいることもありますからなおさらです。キャリアに関する話だと、「実は今担当している仕事に全然興味が湧かないんだ」「上司と折り合いが悪くて…」といったことも大切な話題の一つなのですが、言いづらくなってしまします。

ここで話しても大丈夫だという安心感があること、そして守秘義務について関係者の同意が得られていることが、話し合いを通じて自己理解を深めるのであれば不可欠でしょう。

話せばよいの？

安心できる場であったとしても、一定の方向に引きずられてしまうということも起こります。

キャリアに関わるワークショップをしていると「ほかの人はどう考えていますか？」とか「一般的にはどうなんですか？」という質問を受けることがあります。自分のキャリアを考えているのですから、誰がどのように考えるかは関係ないと思うのですけれども、どうしても他者が気になってしま

います。むしろ「世間とずれていないか」というところに関心があるようです。同調意識が色濃いのです。

そんな気配の中で、例えば先の「生きがい、働きがいとは何か？」といった話し合いを持つと、「営業の仕事をしているので…」とか、「一家の主なので…」とか、「女だから…」といったありがちな話、しかもどちらかというと、一般に多数派だと目される旧来の価値観に沿う話になってしまします。

あなたの話が聞きたい

まして、ディスカッションということになると、なんらかの統一見解を出さなければという力が働きますから、より同調圧力は増します。冒頭の「ここの話し合いはディスカッションではありません」というガイダンスをするのは、こうした圧力を排除するためです。ですから、「男だから」「みたいな一般論ではなく、自分はこう思い、どう考えるのかを話してください」とさらに言葉を重ねて留意を促します。

CDW®での話し合いが、ワークショップの後半で、しかも1回だけになっているのは、個人作業を丁寧にして自分の話をするだけの素材をもっていないと、一般論ではない自分の話がなかなかできないからです。自分の本音を分かっているという、口にしていないことが一般論なのか自分自身の考えなのかの区別がつきづらいのです。

自己分析を踏まえてから自分の話をする理由はもう一つあります。それはその人の語りが自身のキャリア観を表すからです。次回はこの点について、考えを深めていきたいと思っています。